

司式: 佃 雅之
奏楽: 橋本恵美子

前奏: 「天の御国にいます我らの父よ」(J. パッヘルベル)

招詞: わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に置く。(エゼ 36:26a)

讃美歌 208「主なる神よ、夜は去りぬ」

交読詩編 133 篇

01 【都に上る歌。ダビデの詩。】見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんと
いう喜び。

02 かぐわしい油が頭に注がれ、ひげに滴り/衣の襟に垂れるアロンのひげに滴り

03 ヘルモンにおく露のように/シオンの山々に滴り落ちる。シオンで、主は布告された/祝
福と、とこしえの命を。

朗読聖書①詩編 32:1-5

01 【ダビデの詩。マスキール。】いかに幸いなことでしょう/背きを赦され、罪を覆って
いただいた者は。

02 いかに幸いなことでしょう/主に咎を数えられず、心に歎きのない人は。

03 わたしは黙し続けて/絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。

04 御手は昼も夜もわたしの上に重く/わたしの力は/夏の日照りにあって衰え果てました。

〔セラ

05 わたしは罪をあなたに示し/咎を隠しませんでした。わたしは言いました/「主にわた
しの背きを告白しよう」と。そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを/赦してくださいまし
た。〔セラ

朗読聖書②ルカによる福音書 7:36-50

◆罪深い女を赦す

36 さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスは
その家に入って食事の席に着かれた。

37 この町に一人の罪深い女がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に
着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、

38 後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪
の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。

39 イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、「この人がもし預言者なら、自分
に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。

40 そこで、イエスがその人に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがある」と言
われると、シモンは、「先生、おっしゃってください」と言った。

41 イエスはお話になった。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五
百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。

42 二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二
人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」

43 シモンは、「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「
そのとおりだ」と言われた。

44 そして、女の方を振り向いて、シモンに言われた。「この人を見ないか。わたしがあ
なたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬ
らし、髪の毛でぬぐってくれた。

45 あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わ
たしの足に接吻してやまなかった。

46 あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。
47 だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大き
さで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」
48 そして、イエスは女に、「あなたの罪は赦された」と言われた。
49 同席の人たちは、「罪まで赦すこの人は、いったい何者だろう」と考え始めた。
50 イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

祈 禱

父・子・聖霊なる御神、愛に満ちたあなたの聖名を心から褒め称えます。

慈愛の神、あなたは私たちを、あなたの似姿に創造され、命の息を吹き
入れて、生きる者としてくださいました。そしてあなたは、地上に生きる
私たちの救いのために、御子イエス・キリストにおいて、私たちに対する
愛を明らかにしてくださいました。私たちは主キリストに出逢い、神の民
に加えられ、今あなたの御言葉に聴き、あなたに祈り、あなたに従い行く
ことが許されています。このはかり知ることの出来ない恵みを心から感謝
致します。

しかし主よ、私たちは時に、自分のことばかりに気を取られて、あなた
の前で身を隠し、あなたを見ず、自分ばかりを見てしまう愚かさから抜け
出すことが出来ずにいます。主よ、どうか、この命の礼拝において私たち
をもう一度、あなたの御言葉で捉えてください。キリストの福音に私たち
が固く留まり、悔い改めの実を結ぶことが出来るようにしてください。私
たちが人間的な愚かさによって、あなたから取り除かれることがないよう
に、聖霊が執り成し、支えてくださいますように切にお願い致します。私
たちをあなたに養われるに相応しい者へとしてください。

主よ、今朝、私たちは、特にアジアの諸教会を覚えてこの礼拝を献げて
います。あなたに名によるアジアの教会が、和解し、連帯して、あなたに
与えられた夫々の地で、福音を広く宣傳していくことが出来ますように。
あなたの名によって建てられた一つひとつの教会・伝道所が、共にあなた
を賛美し、祈りを合わせ、悔い改めて、神の国を待ち望む群れ、また、神
の国を先取りしたキリストの教会として、あなたの御用のために仕えるこ
とが出来るようにしてください。

慰め主よ、私たちの教会には、高齢のため、病のため、礼拝に集うこと
の出来ない者が居ります。また様々な困難な状況の中にある友、深い悲し
みの中にある友、生きる力と希望を失っている友に、あなたが聖霊によ
って臨み、慰めと励ましとを、どうか豊かに与えてください。私たちがこの
礼拝でいただく恵みを、今日此処に集い得ない者たちにも、あなたご自身
が届けてくださいますようお願い致します。

神さま、今この世界は苦しむ人が増え続けています。震災によって、戦
争によって、飢え、渇き、困窮が広がっています。差別、孤独、対立が深
まっています。そのために泣き叫んでいる人たちが居ます。主よ、あなた
の聖霊の息吹が、この世界の隅々にまで吹きわたり、私たちばかりでなく、
全てが新たにされて、あなたの御心に適うものとなりますように。主よ、
どうか、地上に平和を来たらせてください。あなたが御力をもって介入し
てくださり、全ての人が平和の主であるあなたの招きに気づくことが出来
るようにしてください。そして私たちが、今本当にすべきことを、考え
るべきことを、祈るべきことを教えてくださいますようお願い致します。

神さま、今朝立てられた説教者を感謝します。鮎川健一牧師が聖霊の導きを豊かに受けて、あなたの福音の消息が力強く語られますように。そしてまた聴く私たちの心に深く届きますようにあなたの助けを祈ります。

主なる神、この礼拝をあなたに栄光を帰する最高の時としてください。これらの祈りを主イエス・キリストの聖名によって祈りいたします。アーメン。

讃美歌：149「わがたまたたえよ」

説教：「愛と赦し」

鮎川健一

毎年恒例の5月の連休を過ぎ、暦の上では夏を迎え、時は進み季節が変わりますが、日本も世界も今なお様々に混乱の中にあると言わざるを得ません。この世で生を受けた者はみな、それぞれに課題を担いつつ今を迎えています。その中でキリストを主と仰ぐ信仰者たちは、御言葉に生かされ、それぞれの思いを越えたところに、主は確かな道を備えていてくださることを思います。その大いなる恵みに感謝し応えるべく、今朝の箇所から御言葉をいただきます。

主イエスは、ファリサイ派の人の招きを受けて食事をされました。当時、食事を共にすることは、その人と親しい関係を持つ意味を示しました。これまでも主はシモン・ペトロの家で食事をされ、徴税人レビの家でのこともありました。主は彼らに招かれながらも、彼らを神との親しい交わりへと招かれたのです。実際、主は罪人を招かれました。しかし聖書から「ファリサイ派の人々とは陰険な関係にあった」と考えがちです。一方、主は求められれば、ファリサイ派の人とも食事をされました。このことは、イエスというお方が、「差別区別なく御自分の中に生きるように招く方」、ということを意味しています。今朝の箇所では、主がファリサイ派の人から招かれています。主がこの家で共に食事をした、ということから、この関係は逆転します。主イエスとの関係、それはいつもそうです。聖書の中では、常に逆転劇が報告され、「豊かな主の御業の証し」として記されています。私たちが何らかのきっかけから教会の門をくぐったことでしょうか。しかし教会に来ると、求めていたのは私ではなく、「父なる神が、主イエスが長い時間、私を求め、私を捜しておられた」ということに気付かされた逆転に驚きます。ファリサイ派の人は主を招きました。しかし食事の席で招いているのは主であり、この家の主人は、主イエスとの交わり、神との新しい交わりへと招かれています。主による招きの物語が、食事の席に突然入ってきた一人の女性とのやり取りの中にあります。

37節には、「この町に一人の罪深い女がいた。」とあります。この人はどんな罪を犯したのでしょうか。これまで多くの推測が飛び交いました。代表的なのは、「娼婦だった」というものです。聖書に詳しく書いてないので不明瞭ですが、事実は、その町では誰もが知っていること、「罪を犯した女性だ」ということです。そこでこの人は、食事の席に突然入って来るやいなや、「主に後ろから近づいて泣きながら主の足を涙でぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、更には、足に接吻して香油を塗った」とあります。当時の一般的な食事スタイルは、低い座卓の周りに足を投げ出して、また肘を突いているような格好です。これを思えば、ひと昔前の日本では「行儀悪い」と叱られる形でしょう。そのような形で主も食事をされていたということです。それに輪を加えての女性の行動ですから、異様な光景とも映ります。今までなされていた会話も止み、その場に居合わせていた人々は、啞然としつつも、この女性の行為に目を

奪われたことでしょうか。女性は主の足に接吻し、香油を塗り始め、その香りが部屋中一杯に広がりました。主はこの女性を咎めることなく、思いを芯から受け留められました。

ルカ福音書の物語の流れからみますと、この女性は主イエスと対面したのはこの時が初めてではなかったと思われまます。今まで主が多くの人々を癒やし、福音を告げていく中で、この女性との出会いもあったことでしょう。中では、愛する人が主によって癒された、ということも考えられます。確かなことは、「主の告げる福音を聞き、自分も神に愛されている」ことを知らされ、こんな私でも「赦されている、いま、こうして生きていてもよいのだ」、そう思ったかもしれません。いずれにせよ、主がこの町に来られ、ファリサイ派の人の家で食事をされていると聞いて、この人は、「是非とも主に直接お会いしたい」と思ったことでしょうか。そしてこの家に来たのでありましよう。世間から「罪深い女」と見られている中で、このファリサイ派の人の家に行くこと自体、さらなる冷たい視線が向けられることは覚悟の上でのことでしょうか。それでも、「主にお会いしたい」、このことを切望したのです。しかし主にお会いしたら、「足を涙でぬらし、髪の毛でぬぐい、香油を塗ろう」、このこととは最初からは思っていなかったことでしょうか。計画的に用意周到に、褒められたいがための行動というわけではなかったことも分かります。彼女は主のお姿を拝見して、「自然と涙が溢れてきた」と見られます。彼女には、主に対して「そうしないではいけない」、この事情を抱えていたとみられます。

ではどうして主は、そこまで深く、しかもすぐに受け止められたのでしょうか。以前、私たちは、ナインという町で、死んでいた青年を主が生き返らせた記事(ルカ 7:11-17)を読みました。一人息子を亡くして泣いている婦人に、主は強く諭されました。しかし今回は、責め立てはしませんでした。それは特別に親しい女性だったということではなく、ナインの町のやもめの涙は「死に打ちひしがれた涙」で、今回の涙は、「感謝の涙、悔い改めの涙、喜びの涙」という違いが明らかなことから、主は思いを真正面から受け取られたのでしょうか。この人は、主との交わりの中に真実をもって招かれました。

しかし一方では、ファリサイ派の人の心は穏やかではありません。事もあるうに、主に近づいたのが、この町でも悪名高き「罪深い女」だったからです。彼にしてみれば、この人が自分の家に入ってきたこと自体、許しがたき行為だったでしょう。心の中で思いました。39節です。「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに。」と。彼はファリサイ派です。「ファリサイ」という言葉(Φαρισαῖος/פָּרִישַׁי)自体、元の「分ける、分離する」という言葉から出ています。「自分たちは律法を守っており、だからこそ神に愛され、聖なる者なのだ。律法を守らない罪深く汚れた者たちとは違う」、そういう思いの中で自分たちを上に見る、罪人を隣人も認めず、顔を見ることがもなく、決して交わらない人たちでした。よく言えば、「律法を守ることに熱心で、篤い信仰心を持っていた」となるでしょう。そのような彼らからすれば、「神の預言者とは、自分たち以上に罪や汚れに敏感で、律法から外れた人を決して赦さないはずだ」、そう考えていました。「イエスがもし本当に神から遣わされたというならば、この女を追い出し、さらなる罪を公衆の面前に掲げて、この女をつるし上げるはずだ」と考えたていたのです。

そこで主は、彼の心の奥深いところにある動きを確実に読み取ります。そして一つの喩え話をします。41節以下の問答ですが、一般的には説明がいらぬ程の話です。ここで仏教的な話をするわけではありませんが、そ

の観点を持つ日本人に喩えるならば、“死ぬまで助けてくれたあの人の方には足を向けて寝られない”、このように思うような話の展開です。

それなら、“主はこの罪深い女を多く赦された方で、ファリサイ派のシモンを少なく赦された方ということを実証するものか”ということです。ここで「借金」に喩えられるのは聖書で言う「罪」であり、“帳消にするのは神”です。そもそも、罪の赦しに多い少ないということがあるか、そのことの根幹が問われます。使徒パウロはロマ書で、「正しい者はいない。一人もない。」(3:10)と宣告しました。“私たちの罪も、多い少ないで量れない”ということです。ここでは意識の問題となります。同じように取り返しのつかない罪を赦されていながら、“自己存在にかけた根底からの大きな赦しと受け取る者”と、また“行った行為のみに関心を寄せて、表面上の受け止めをする者がいる”、というこの二つです。本人の罪の自覚の問題がこの差を生み出します。

自分の罪を軽くしか考えない人は、赦しも軽くしか受け取れない。しかし自分の罪を真実から深く受け取る人は、赦しの恵みも、大きく、深く受け取るということです。よく聞かれることには、“人を殺したり、盗みをした人でも、悔い改めたなら赦されるのですか”というものです。“自分が赦されるのは判る、しかし人殺しや窃盗は赦されないはずだ”と、こう考えるのです。罪を量で考えるとそうでしょう。罪を量で考える人、それは、罪の大きさをも比較するわけです。結果、“あの人は自分はましだ”と思うのです。しかし神からみた罪の赦しは他人と比べようがないものです。神から与えられる罪の赦しは、私と神との一対一の真正面からの関係の中で与えられるものです。逃げも隠れもできない真実の向き合いの中で、この出来事があるわけです。主はファリサイ派のシモンに対して、“この人と同じように赦される”と告げられたことです。世間から追われたこの人は、主イエスと出会い、罪赦されて新しい命を与えられました。周囲の目も気にせず、主に対して精一杯の愛を献げた姿は、“神への献身”として現れました。

使徒パウロもコリントの手紙一の中で「神の恵みによって今日のわたしがあるのです」(15:10)と告白しています。この「神の恵み」という言葉は「神の赦し」と言い換えられます。使徒パウロは、“神の真実なる赦しによって新しい私が生まれた。その赦しの中で今の自分はある”と受け止めました。実に罪の赦しとはそういうものです。一切の罪が赦され、神の子、神の僕としての新しい命がそこに生まれます。父なる神を愛し、救い主なる御子イエスを愛することが、御霊の導きと共に自分の人生のすべてとなる。そういう劇的な変化が起きるのです。これがまさに大逆転劇の一つとして証しされている出来事です。

私たちは聖餐の恵みに与かるごとに、主の食卓に招かれ、主から罪を赦された者として、神との交わりの中に生きる者とされている、そのことを、ここからも深く受け止めるものです。主は罪を犯した女に、「あなたの罪は赦された。」と告げ、更に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」と告げられました。この箇所から、それならばどこに行けばよいのかと思う人も少なからずおられます。その答えの一つは、今までの罪の生活と決別し、新しい神の子としての歩みへと新しく歩み出していくことです。主に会い、そして向かった罪深い女は、主イエスと共なる食卓のある交わり、教会の交わりへと向かいました。それも他に彼女が行くべき所がなかったほどに、決定的な方向へと導かれて行きました。私たちもこの罪深い女と重なります。私たちはそのことを自覚されるべく、「あなたの罪は赦された」と、この主の御声を聞き、洗礼を受けるに至って、主を心より愛する者として、新しい歩みを始めたことでしょう。そこから主の御前に出て、信仰により、

真実に、誠実に、歩んでまいりたいと願って、今があることを思います。

それだけでなく、私たちはファリサイ派のシモンとも重なります。彼のような罪への鈍さが、多かれ少なかれ程度の差こそあれ、心のどこかに未だしつこくあるものです。ともすると人と比べる愚かさがあります。しかし主は、そういうシモンも招かれました。私たちも例外ではなく、特別でもなく、この悔い改めた罪深い女のように、自らを誇ることなく、ただ神の赦しの中に生きることを求められ、主イエスに招かれています。この招きに十二分に応える者として、主の道に導かれて、これからも歩んでいきたいと願うものです。

祈りましょう。

全知全能の神にいまし、御業の御計画を常に示される主イエス・キリストの父なる御神さま、主の大いなる命の中で、生かされていること、感謝します。どうか、真の命に行かされるべく、更に豊かに御霊を注ぎ、私たちの心を常に柔らかにし、主にある望みに向かって信実に生きる者と為さしめてください。

真の父なる御神、あなたの御言葉は永久に生き続けることを、またこの時に、私たちが御言葉を聴き、信ずる中であって生きる者となりますように。

尊き主の聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讃美歌:303「丘の上の主の十字架」

献金・感謝(吉田千鶴子)・主の祈り

ご在天の父なる神さま、あなたの聖名を賛美します。夫々に新しい朝を整えてくださり、礼拝堂で、ライブ配信で、あなたの礼拝に与ることが許されましたことを心より感謝致します。

本日はアジアの諸教会のために祈りを献げました。あなたの平和が実現されますことを願います。

神さま、只今、あなたの御恵みに感謝して、あなたから戴いたものの中から献金を献げました。どうぞ祝してあなたの御用のため、本日は特にアジアの諸教会のためにお用い下さい。

また今日も、あなたの御言葉の説き明かしとして、神と私たち個人との一対一の関係の中で罪の赦しについて、牧者から励ましとお勧めを戴きました。心より感謝致します。

過ぎる一週間、あなたの御言葉に背くことが多かった私たちですが、戴いた御言葉により、今また、新しくされて新しい一週間を、御言葉と共に、夫々の場で過ごすことが出来ますよう、聖霊の導きとあなたのお守りを願います。

神さま、本日は遠方よりお出で下さった小友聡先生が、教会の100年の歩みを記念した第三回公開講演会でお話しくださいます。あなたの御恵に充ちた豊かな時となりますよう、私たちの心の目と耳を開かせてくださいますようにお祈りします。

この礼拝に様々な事情で集い得ない兄弟姉妹が居ります。どうぞ礼拝に与りました私たちと同じように、あなたの祝福とお支えがありますようにしてください。

主がお支え下さいました「主の祈り」を兄弟姉妹と共に、あなたにお献げし、一週間の歩みを始めさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣：讃美歌 89「共にいてくだし」

祝福：主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき交わりが、ここから遣わされていくあなたがた一同と共に、今も後も永遠にあるように。アーメン。

報告：教会総会資料修正 ①1 頁「目次」ページ番号の修正・◇「教会学校会計報告」(16)→(13)、・◇団体「聖和会…13」以下各団体頁数に「+1」、・◇会計決算「通常会計決算(第 1 表)…37」以下各行項「+3」、②本文 37-39 頁を削除。

後奏：「主なる神よ、いざ天の御門を開かせ給え」(J.S. バッハ)